

目次

JALSGAPL205R 研究を終了して
第 17 回 JALSG 研修会
施設紹介：日本大学板橋病院血液膠原病内科

JALSG APL205R 研究を終了して

藤田保健衛生大学 血液内科
恵美宣彦

ひとつの臨床研究を企画してそれを無事終了して論文になるというのは自分の人生の中で一度あるかないかではないでしょうか。APL205R が終了しましたので自分なりの感想を書いて見たいと思います。中国のヒ素治療の話が大野先生から紹介され、浜松医大で再発例の単剤での治療がまとまった頃に、APL 再発例にきちんとしたレジメンを作ってはと話題が出たのが始まりです。当時、再発に関しては、ATRA や、ヒ素で短期間のみ治療して再発したり、延々と治療を続けたりと主治医の感触で対応していたように思います。自家末梢血幹細胞移植と 亜ヒ酸を組み合わせたプロトコルを作成して、パイロット研究を開始しました。倫理委員会の審査を無事クリアしてスタートしたものの再発 APL 患者は当時の名古屋大学にはおらず、知り合いの先生を通じて全国に症例の紹介をお願いしました。すると数ヶ月のうちに 3 例の再発症例が登録されました。

その中の一人が K 君です。明るい青年で主治医の先生よりの紹介状を持って、お父さんと私の前に現れたのを今でも覚えています。彼の治療をプロトコルどおり終えて彼が田舎に帰ったのは 2004 年の夏でした。退院以来、年賀状はもらっていましたが、今回は結婚したという報告をもらったのと日血国際シンポジウムが近くで行われたこともあって、当時の主治医の山本一仁先生と一緒に彼の住んでいる街を訪ねました。待ち合わせの郷土料理店で鯛めしを食べながら、昔の治療のことで花が咲きました。

最初の心配事であった再発とは別に結婚のことが次第に彼にとっての悩み種になっていったようです。なかなかの好青年なのですが、病気のことを打ち明けると”ごめんなさい”メールが来てそれ以上続かないことが多かったようです。しかし、昨年、親戚のおばちゃんの紹介で今の奥さんを紹介され、病気のことを話しても、気にしないわと言われ、また話があうのでトントン拍子で結婚式を迎えたということでした。



そのときの話でもでたのですが、当時の主治医の先生が私たちの研究に彼を紹介してくれなかったら、彼との出会いはなかった訳ですし、大変離れた病院であった訳ですが、お父さんがよっしゃいくぞーといって当院まで来てくれなければ実際に治療登録できなかった訳です。その日は夜が暮れるまで、3人で話をして、血液内科医として最高の夜を過ごすことができました。

そのパイロット試験を発展させる形でスタートした APL205R は、JALSG 施設の協力を得て予定より早く症例を登録することができました。その経過の中で臨床現場のいろいろのむずかしさと臨床研究の問題点に気づかせてもらい、よりよいプロトコルとはどういうものかを考えることができました。

2012年6月に最終症例の観察期間が終了したので、データの固定に入りました。私からのメール、電話にすぐに対応して下さった主治医の先生方ありがとうございます。自分だったらこんなにすぐにデータを確認できるかなと思いながら、FAX、メールでの素早い返答に驚いておりました。特に藤沢市民病院の藤巻先生には、いったい何人患者を診ているんやと突っ込みたくなるほどたくさんの登録ありがとうございます。

論文化に関しては、当院の運営委員の柳田先生がエネルギーを注いで書いてくれて、昨年10月には投稿できました。すべてとんとん拍子であったこの臨床研究も最後に思わぬ伏兵が待ち受けていました。BLOODのレビューアーの評価は上々で、出された指摘すべてに対して十分に回答することもでき、自信満々で修正版を再投稿しました。しかし、直後に reject と返事が来たのです。その時は柳田先生と目を合わすことができなかつたのですが、冷静になって考えてみるとこの判定は何かの間違ひではないかと思い、慎重に言葉を選んで編集局に問い合わせました。すると、担当編集長の Tallman 先生が accept と reject を間違えて押ししてしまったことが判明しました。ほっと胸をなでおろした次第です。

この研究には私個人としても多くの経験をさせてもらい血液内科の臨床を楽しくしてくれました。今後はこの経験を JALSG で生かしていきたいと思っています。



会議予定

- 2013/10/10 第46回 JALSG 定例会議・JALSG 運営委員会
18時～予定
於：さっぽろ芸文館（札幌）
- 2013/12/14 平成25年度第2回直江班・小林班・宮崎班合同班会議
於：名古屋大学
- 2014/2/15 JALSG 研修会 世話人幹事 宮村幹事



第 17 回 JALSG 研修会

～ JALSG 臨床研究の質的向上を目指して～

日時：平成 25 年 2 月 23 日（土）11：00～12：45

場所：グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール 2F 青葉

司会：広島赤十字原爆病院, JALSG 幹事（清井 仁先生）

I. 第 17 回研修会開催にあたって：

JALSG 副代表 都立大塚病院 宮脇 修一先生

II. JALSG 検体保存と付随研究審査システムについて：

熊本大学大学院生命科学研究部血液内科学

麻生 範雄先生



III. 「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」 の改正について：

東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター

公共政策研究分野 武藤 香織先生



施設紹介

日本大学板橋病院血液膠原病内科

当科は、JALSG と非常に深い歴史的関係がありますので、少々細かくなりますが、ご覧下さい。現在以下のようにさまざまな委員会に携わらせて頂いております。この場をお借りしてまずは御礼申し上げます。

JALSG 関連担当医としては、竹内 仁前教授が ALL、八田善弘准教授が PhALL、入山規良先生が CML212、三浦勝浩先生が JASPA であります。古くは JALSG 発足当時からお仕事をされておられた大島先生から面々と現教室に受け継がれており、若手医師を含めて積極的に参加させて頂いております。

一方医局内の臨床研究においては、白血病、リンパ腫、および移植関連を柱としておりますが、若手医師の希望により特定のグループに所属するのではなく、その都度希望テーマに応じて比較的自由に臨床研究に携わる形態をとっており、将来のテーマを絞りつつも自由な雰囲気重視しているのが特徴と言えます。東京都内は多くの優秀な施設が隣接しており、その中で存在意義を示しつつ他施設との交流（特に都内の城北エリアを中心に）を大切にしております。



今後とも JALSG のプロトコールに参加し、症例登録に積極的にかかわりたいと願っているところです。

若手医師の方で当院での研修を希望される方がいらっしゃいましたら、医局長（入山）まで遠慮なくアプローチして頂けると幸甚です。

文責 小林 寿美子



JALSG HP リニューアル

昨年の幹事会で決まりましたHPのリニューアルの作業が進んでいます。マックスプランの柳さんと打ち合わせをしながらアイデアを出しています。大体のデザインは以下のようになっています。



編集後記

投稿がないため、私が書くこととなりました。是非、学会雑感、血液内科に関することの投稿を待っています。

教育・広報委員長 恵美彦彦

成人白血病治療共同研究グループ（JALSG）

事務局：〒431-3192 浜松市東区半田山1-20-1 TEL/FAX:053-433-4993 mail:jalsgsc@hama-med.ac.jp

発行責任者：直江知樹（代表）

編集責任：教育・広報委員会

発行日：2013・8・1

